

科目名	権利擁護と成年後見制度（社会福祉士必修）		
授業形態	講義	学年	2
開講時期	2023年度 後期	単位数	2
担当教員	菊地 恵子		
内容および計画	<p>授業のねらい</p> <p>①法に共通する基礎的な知識を身につけるとともに、権利擁護を支える憲法、民法、行政法の基礎を理解する。②権利擁護の意義と支える仕組みについて理解する。</p> <p>③権利が侵害されている者や日常生活上の支援が必要な者に対する権利擁護活動の実際について理解する。④権利擁護活動を実践する過程で直面しうる問題を、法的観点から理解する。⑤ソーシャルワークにおいて必要となる成年後見制度について理解する。</p> <p>地域の中には、本来誰もが平等に持っている権利を、自ら主張し、守り、適切に行使することができない人々が多数存在します。そうした人々の権利擁護を支える法とその仕組み、権利擁護の意義について学び、ソーシャルワーカーが行う権利擁護とはなにか、どうあるべきかを考えます。</p>		
1	<p>権利擁護に必要な方制度</p> <p>権利擁護と人権のかかわりについて理解する。市民生活に関わる法と権利擁護の関係について理解する。行政に関わる法と権利擁護の関係について理解する。</p>		
2	<p>憲法</p> <p>憲法の役割と概要について学ぶ。人権の種類、内容、性質および人権調整を理解する。裁判例の考え方を理解する。</p>		
3	<p>民法</p> <p>権利擁護にかかわる民法の基本となる原則を理解する。契約に関する基本を理解する。不法行為の基本を理解する。親族・相続に関する基本を理解する。</p>		
4	<p>行政法</p> <p>行政活動の形式とその特徴を理解する。行政活動のうち救済の対象となるものを理解する。救済の対象となる行政活動の形式について適切な救済手段を理解する。</p>		
5	<p>法の基礎</p> <p>我々を取り巻く決まり事にはどのような種類があるか、その中でも法はどのような特徴を持っているか理解する。「法」の種類、制定法の種類と効力の上下関係を理解する。法の機能を理解する。裁判の意義と種類を理解する。判例の意義を理解する。権利擁護と判例の関係を理解する。</p>		
6	<p>権利擁護の意義と支える仕組み</p> <p>権利擁護が打ち出された背景を理解する。地域を基盤とした権利擁護を理解する。権利擁護とソーシャルワークとの関連を理解する。福祉サービスの適切な利用が必要とされてきた背景を理解する。福祉サービスの適切な利用の具体的内容を理解する。苦情解決のしくみの概要を理解する。多様な苦情解決のしくみの意義を理解する。</p>		
7	<p>虐待・暴力防止関係法の概要</p> <p>虐待・暴力防止関係法の概要を学ぶ。</p>		
8	<p>障がい者差別解消法の概要</p> <p>障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律の概要を学ぶ。合理的配慮のあり方を知る。</p>		
9	<p>意思決定支援</p> <p>支援付き意思決定支援とは基本的人権として保障されていることを理解する。支援付き意思決定支援と代理代行決定を区別する理由について理解する。意思決定支援における支援者の基本姿勢を理解する。意思決定支援ガイドライン相互の関係性を理解する。意思決定全体のプロセスとチームアプローチの重要性を理解する。意思決定能力アセスメントと代理代行決定のプロセスについて理解する。</p>		
10	<p>インフォームドコンセント・秘密・プライバシー・個人情報・権利擁護活動と社会の安全</p> <p>インフォームドコンセントの概念の成立について学ぶ。我が国におけるインフォームドコンセント概念、判例、法的効果について学ぶ。インフォームドコンセント概念の進化・変容について学ぶ。個人情報の秘密やプライバシーを守ることの重要性和、個人情報保護法について学ぶ。個人情報やプライバシーに関して、ソーシャルワーカーが理解しておくべき点について理解する。ソーシャルワーカーにとって必要な守秘義務と警告義務について知る。守秘義務と通報義務の間にかかる専門職のジレンマについて学ぶ。</p>		
11	<p>権利擁護にかかわる組織、団体、専門職</p> <p>権利擁護にかかわる組織、団体、様々な専門職の概要について学ぶ。権利擁護の実践場面の置ける各組織、団体、各専門職の役割について理解する。</p>		

12	成年後見制度の概要・後見の概要 法定後見制度の概要について理解する。成年後見申立の概要について理解する。成年後見人等と本人の関係を理解する。
13	保佐の概要・補助の概要・任意後見の概要 後見・保佐・補助の違いについて理解する。任意後見の概要と意義について理解する。
14	成年後見制度の最近の動向 成年後見制度の利用動向について理解する。成年後見制度の利用の促進に関する法律について理解する。成年後見制度利用促進基本計画とその取り組みの現状について理解する。
15	成年後見制度利用支援事業・日常生活自立支援事業 成年後見利用支援事業の概要と事業の動向について理解する。日常生活自立支援事業の概要と成年後見制度との違いを理解する。

教科書

タイトル	著者名	出版社	ISBN	発行年
『権利擁護を支える法制度』	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編集	中央法規	9784805882399	2021

現代の社会で、高齢者や障がい者の権利が侵害されている深刻な現実があります。社会福祉実践において、権利擁護は基本的な課題です。権利擁護の根拠となる各種法律や成年後見制度はじめ権利擁護の制度への理解を深め、ソーシャルワーカーのあり方や使命について考えます。

参考書	授業の中で示します
-----	-----------

成績評価

評価方法	割合(%)
授業内ミニ課題	30
期末テスト	70

学習到達目標	①法の基礎的な仕組みと憲法、民法、行政法と権利擁護の関係について説明できる。②権利擁護の意義と支える仕組み、関係機関の役割について説明できる。 ③権利擁護活動の実際についてイメージすることができる。④意思決定支援について説明できる。⑤権利擁護活動を実践する過程で直面しうる問題を、法的観点から説明できる。⑥ソーシャルワークにおいて必要となる成年後見制度や関係機関について説明できる。
先修条件	
実務経験	実務経験あり：病院MSW、在宅介護支援センターSW、居宅介護支援事業所ケアマネジャー、地域包括支援センター社会福祉士等、ソーシャルワーカーとして約40年勤務。2006年から成年後見人として活動、現在まで22名の成年後見人、保佐人、未成年後見人を務めている。
その他	